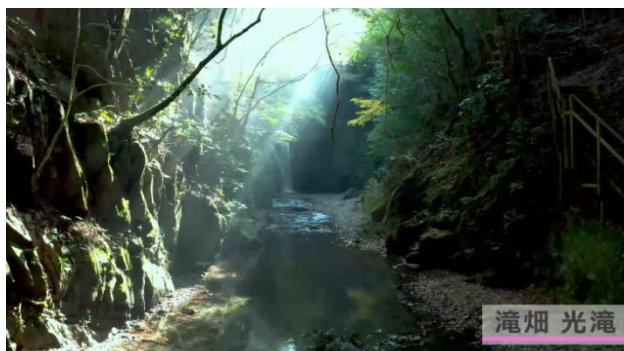


河内長野市未来技術 社会実装事業について

2024.7.24 第4回河内長野市未来技術地域実装協議会

河内長野市の概要

1-1. 河内長野市の概要(地理・現状)



大阪府の南東端に位置し和歌山県(橋本市・かつらぎ町)・
奈良県(五條市)と接する

面積:109.63km² 人口:98,786人(R6.3月末時点)

【市の特徴】

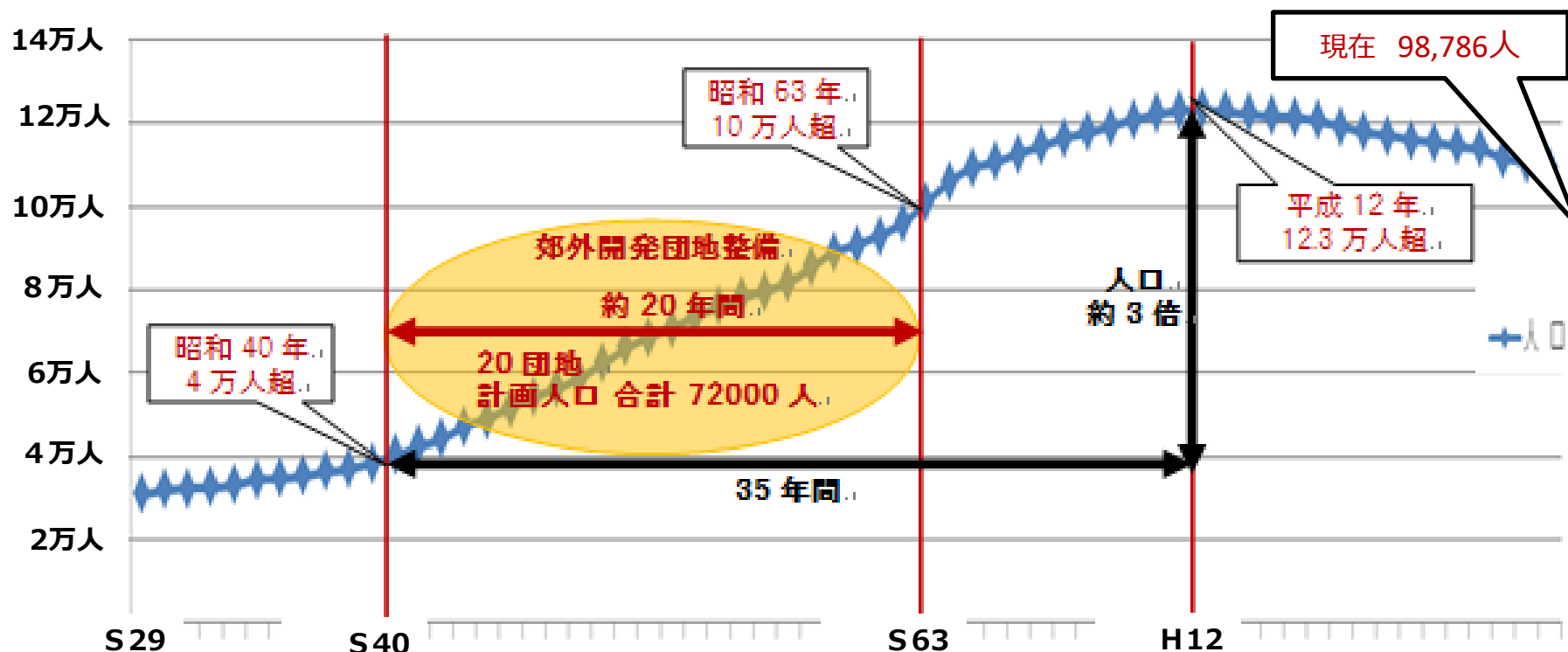
- ・大阪府下33市中で最も人口減少・少子高齢化が進行
高齢化率 35.8%(33市中1位)
人口増減率 -1.45%(33市中32位)
※令和4年1月1日時点
- ・犯罪発生率府下最小
- ・地盤が強いランキング関西1位
- ・文化財が多く、3つの日本遺産認定



1-1. 河内長野市の概要(まちづくりの特徴)

急速に人口減少・少子高齢化が進む要因

- 昭和40年に4万人
- 約20年間で、20団地(計画人口合計7万2千人)の開発団地を整備
- 急激に人口が増加し、平成12年に12万3千人に到達
- 現在は人口10万人を下回っている
- 大阪府下で最も人口減少・少子高齢化が進行



多くの開発団地を短期間で整備し、急激な人口増加を図った。

河内長野市未来技術 社会実装事業の概要

～「地域力」と「未来技術」の融合による
「豊かな生活」実装モデル事業～

未来技術社会実装事業の概要

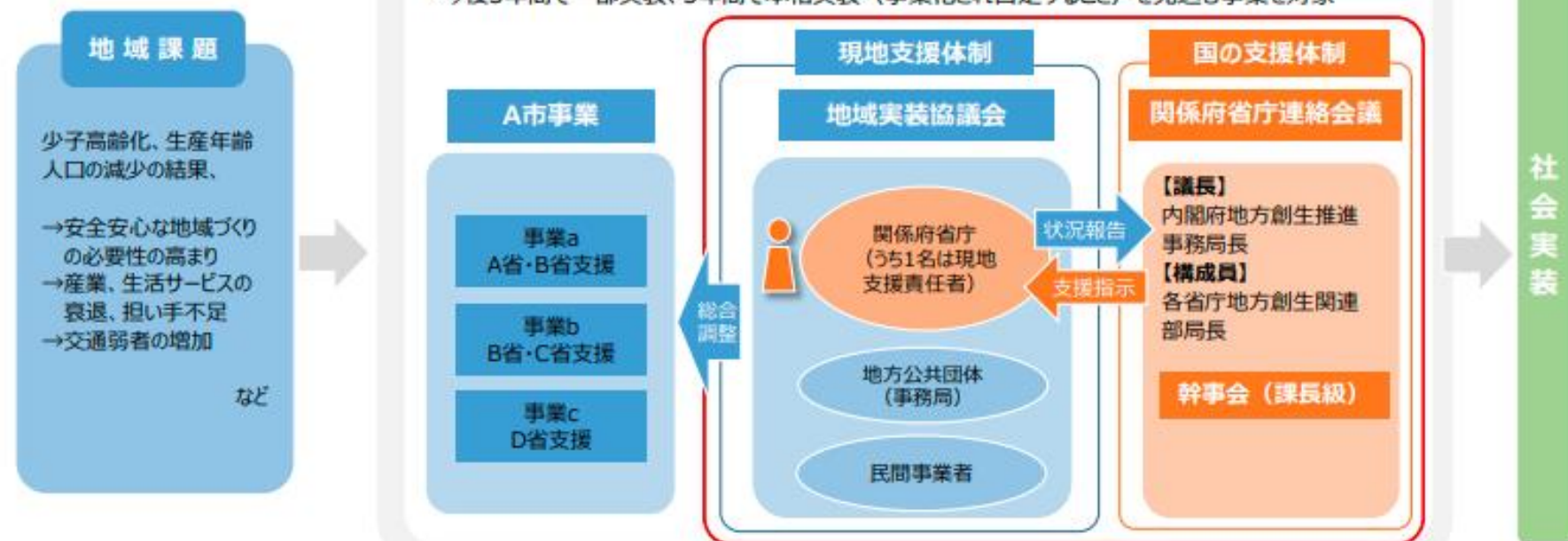
概要

- 未来技術社会実装事業は、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」におけるモデル地域ビジョンにて、先導的なスマートシティの創出を目指すための関連施策の1つとして位置づけられています。
- 事業の概要としては、AI、IoTや自動運転、ドローン等の未来技術を活用した地域課題の解決と地方創生を目指し、革新的で先導性と横展開可能性等に優れた地方公共団体の取組に対して、未来技術の**社会実装に向けた現地支援体制（地域実装協議会）を構築し、関係府省庁による総合的な支援を行う事業です。**
- 未来技術を活用した地方創生に関する提案を地方公共団体から募集し、H30年度からR5年度までに合計55事業を選定。**選定から5年で社会実装を目指し複数年にわたる伴走型支援を行います。R6年4月時点で21事業※に対して支援を実施中です。**

※ H30年度からR5年度までの選定合計55事業のうち34事業はR5年度末までに支援終了。

事業イメージ

- 未来技術を活用して地域課題の解決と地方創生を目指す取組を支援
- 提案された各事業をパッケージ化し、複数の関係府省庁を交えた地域実装協議会にて総合的支援
- 今後3年間で一部実装、5年間で本格実装（事業化され自走すること）を見込む事業を対象



2-1. 河内長野市未来技術社会実装事業について

■事業名

「地域力」と「未来技術」の融合による「豊かな生活」実装モデル事業

■事業実施主体

河内長野市

■事業の目的

日本は戦後急激な人口増加に伴い、全国各地にニュータウンと呼ばれた開発団地が昭和40年台、50年代に多く整備されたが、そのようなニュータウンは開発から40年～50年が経過している。

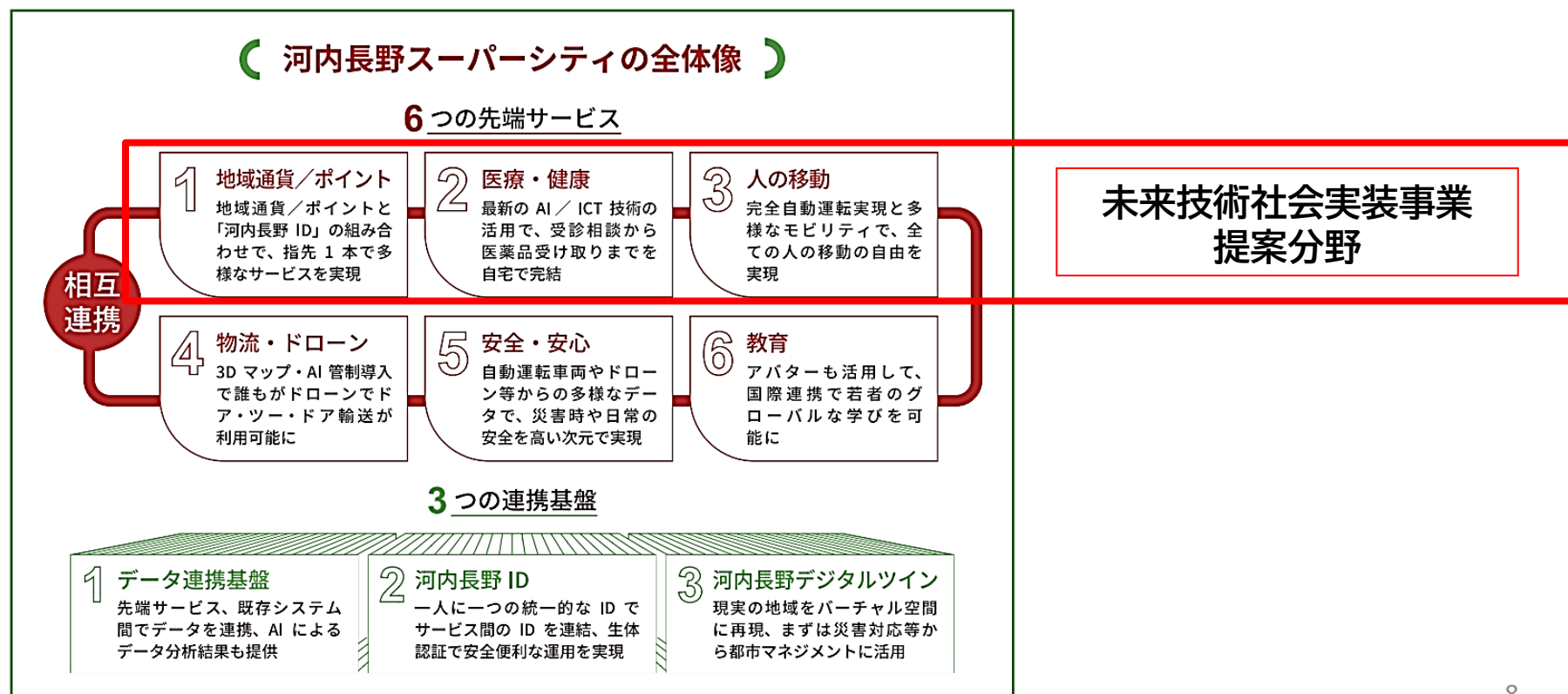
同世代の世帯が同時に入居する開発団地は、親世代の高齢化と子供世代の就職・結婚を機会とした転出が行われ急激な人口減少・少子高齢化が進む特徴を持つ。このようなニュータウンは全国に3,000カ所以上存在しており、急速なまちの変化に対応できるモデルを構築し、その他の人口減少・少子高齢化が進むまちも含め、日本の課題を解決する。

2-1. 河内長野市未来技術社会実装事業について

■ 提案内容

平成26年度から進めてきた「咲く南花台プロジェクト」を通じて、令和3年度に河内長野スーパーシティ構想を策定し、地域の課題の具体的な解決につながる先端サービスとして、6つのサービスを選定した。

これを地域の将来像として、本事業ではこのうち地域通貨・遠隔診療・移動支援について、将来、効果的に地域住民の生活に寄与する仕組みを構築する。



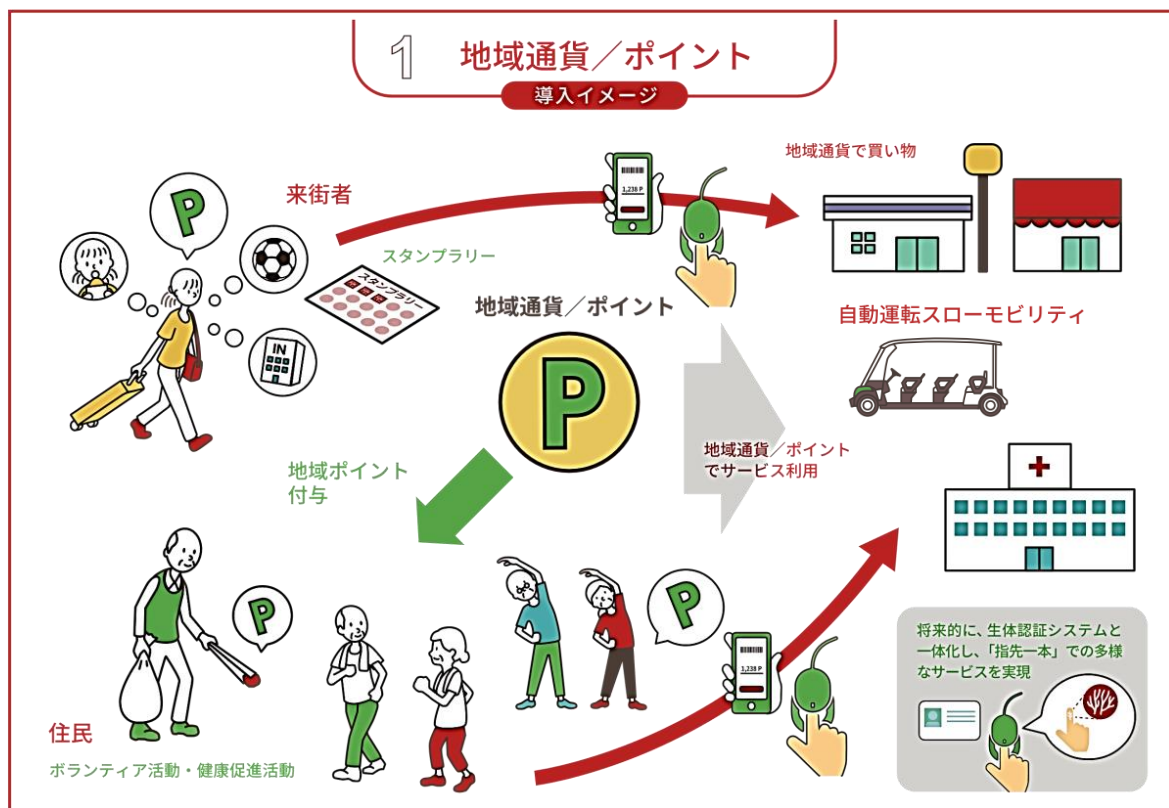
2-2. 提案内容について(目指す将来像)

【地域通貨・生体認証】

健康ポイント・ボランティアポイントと連携した地域通貨を活用して、地域での健康促進事業や地域活動を推進する。

また、これまで外部による委託等で賄ってきた公園等の公共施設の清掃・整備事業をボランティアポイント等により住民主体で実施し、協働のまちづくりを推進。

これらの活動ポイントを生体認証による「河内長野ID」に紐づけて付与することで、地域通貨として「指先一本」で地域内での買い物やサービス享受が受けられる。

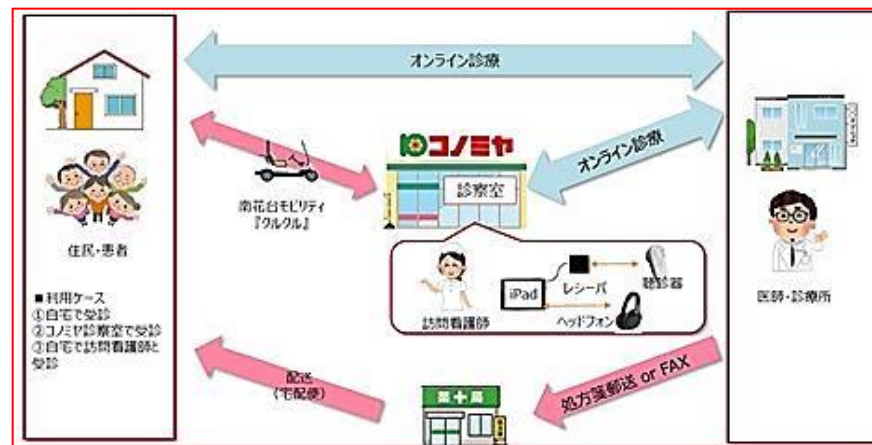
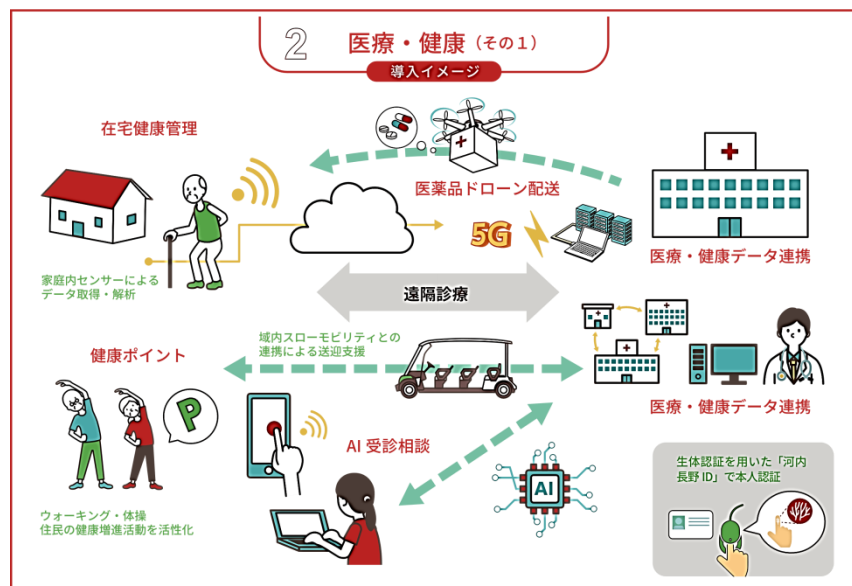


2-2. 提案内容について(目指す将来像)

【遠隔医療】

生体認証による「河内長野ID」とデータ連携基盤により、地域住民の健康状態や医療情報を一元管理し、遠隔医療・予防医療・救急医療のDXを図る。また、データ連携により、上記、健康ポイントの取得状況や地域活動の参加状況、移動支援の利用状況なども情報として蓄積され、これらの生活状況による高齢者の介護予防効果をエビデンスとして確保、介護費や医療費の削減効果の見える化により、行政サービスの高効率化を図る。

あわせて、地域住民が集まるコミュニティ拠点に遠隔診療も可能な地域健康拠点を設け、サービス普及の核とする。



2-2. 提案内容について(目指す将来像)

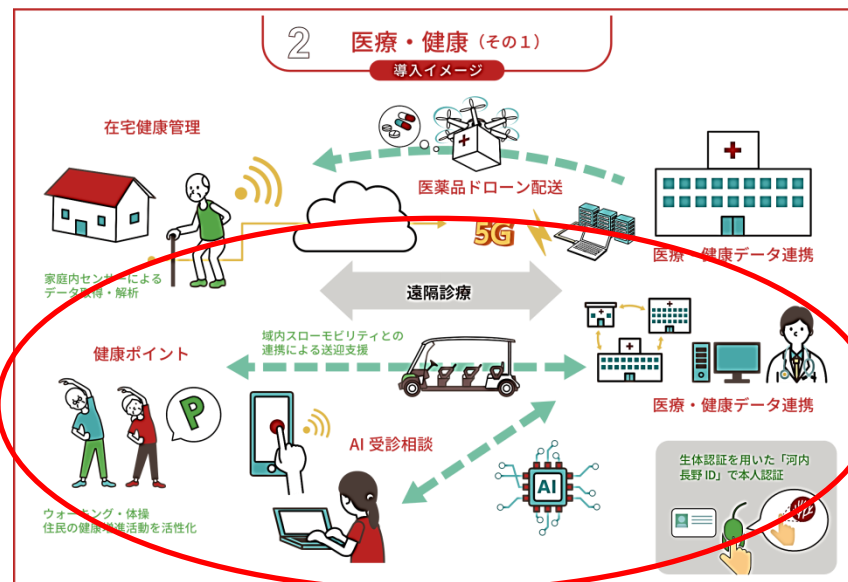
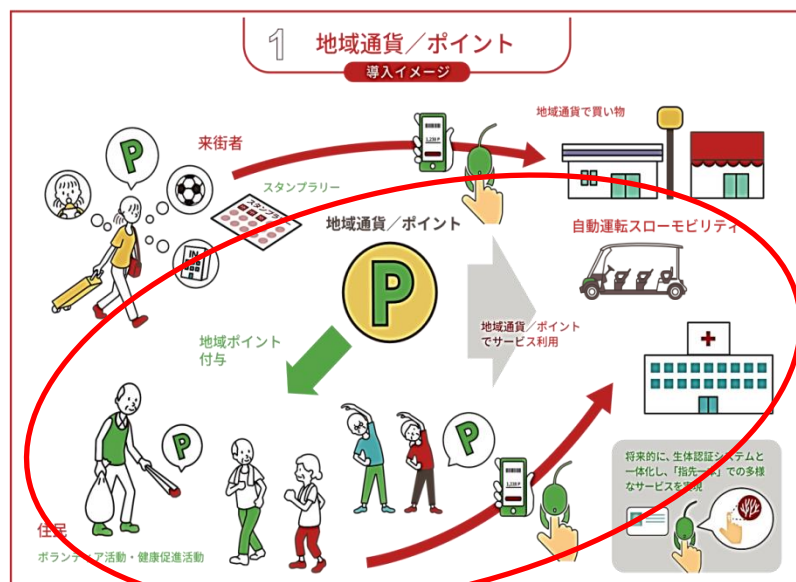
【移動支援】

自動運転とキャッシュレス・ボランティアポイントの連携による地域住民運営の自立した「ラストワンマイル」の移動支援を実現。また、健康状態や医療情報とのデータ連携により、高齢者を始めとした交通弱者が暮らし続けられるまちを実現。

3

人の移動

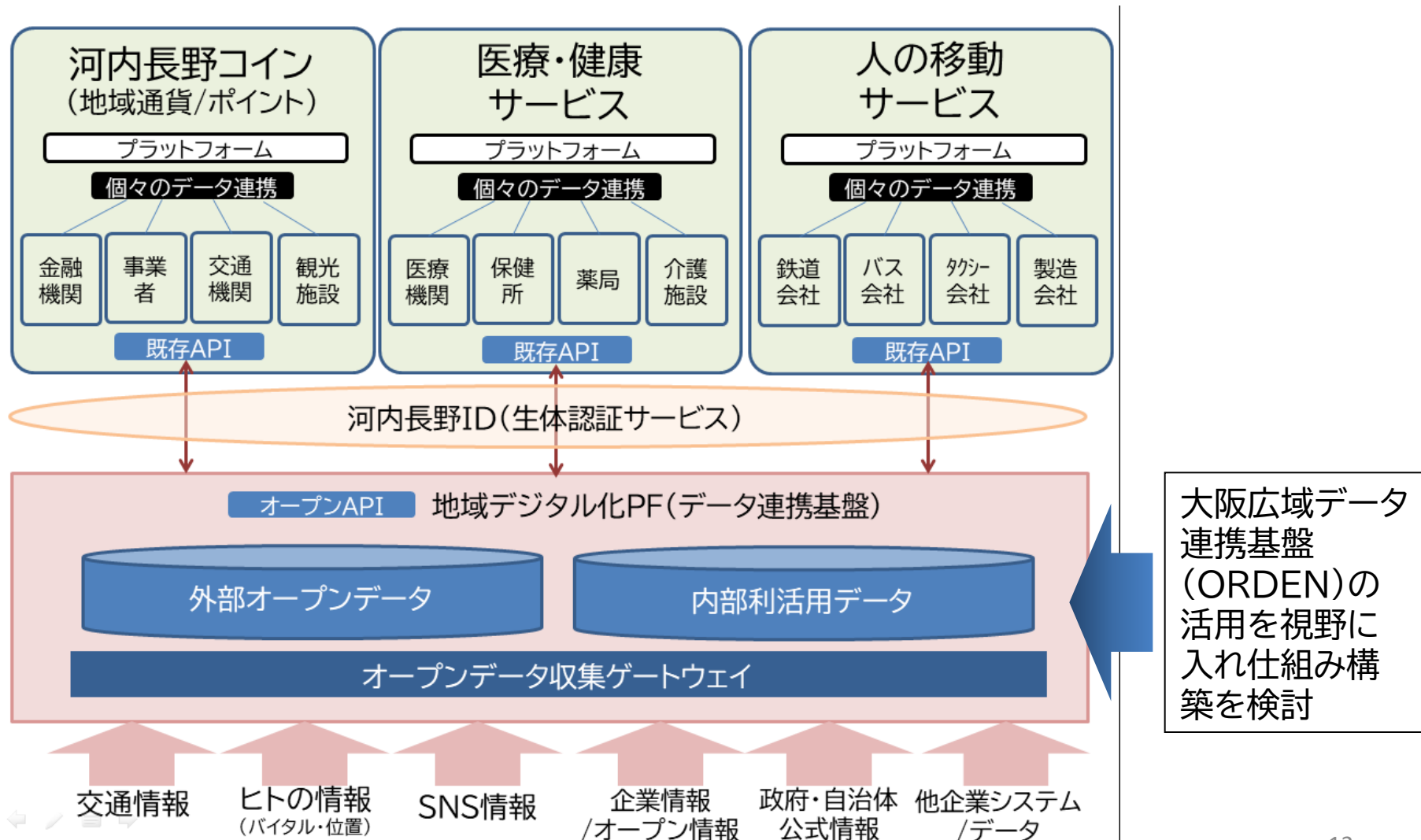
導入イメージ



2-2. 提案内容について(目指す将来像)

【各種サービスのデータ連携】

大阪広域データ連携基盤(ORDEN)との連携を見据えながら、河内長野市独自の都市基盤導入を検討



河内長野市 未来技術 地域実装協議会 運営スケジュール

3. 河内長野市未来技術地域実装協議会スケジュールについて

■事業運営方針について

H30年度未来技術社会実装事業にて推進してきた、南花台モビリティ「クルクル」の自動運転技術と同様、デジタル技術の導入を目的とするのではなく、地域の課題解決にデジタル技術を手段として用いる。



地域住民や、地域の団体(医師会様・社会福祉協議会様など)、地域事業者と連携しながら、提案書に記載した将来像に向けて、着実にデジタル技術の実装を目指していく。

■地域実装協議会の運営について

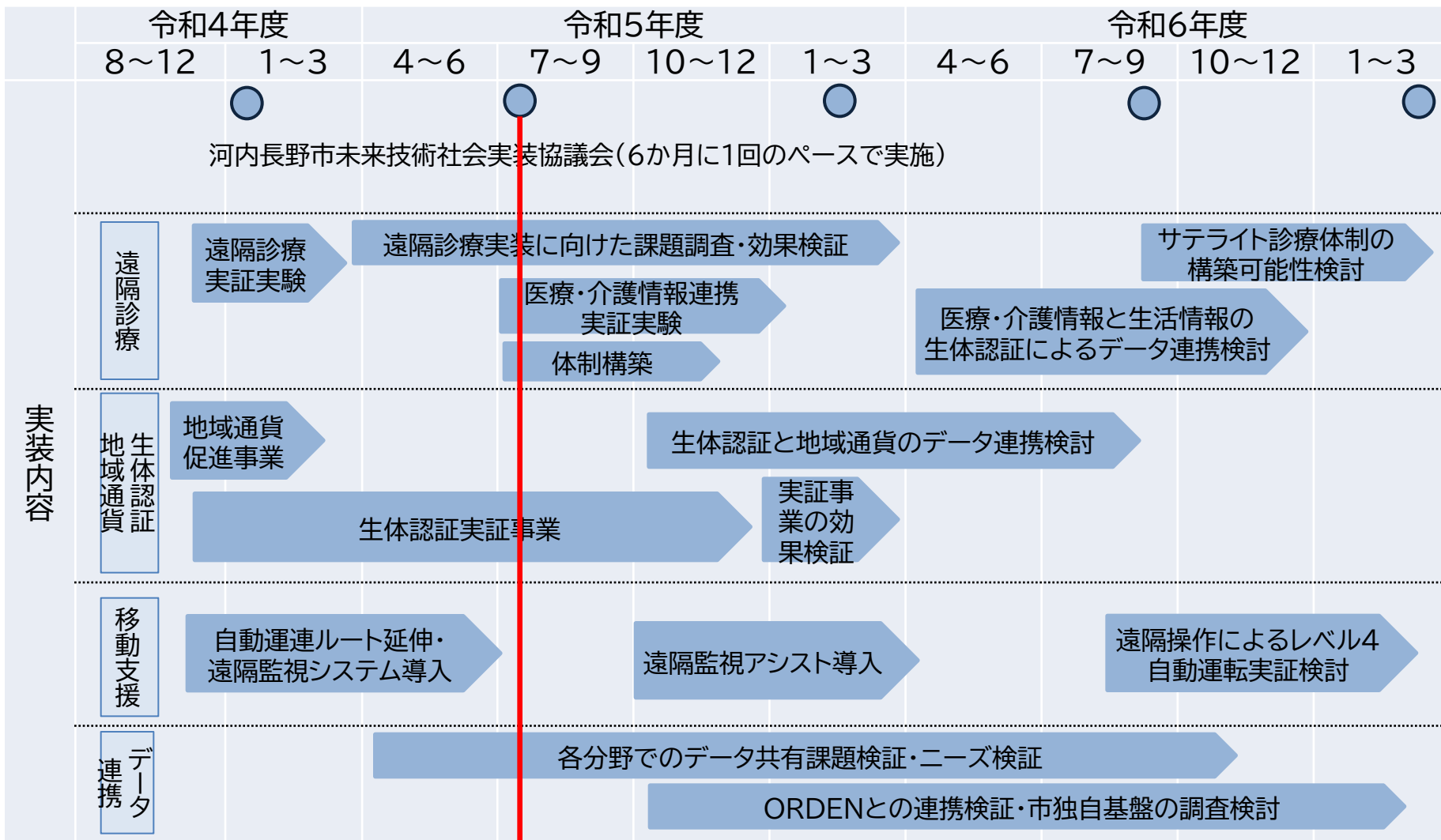
次回以降のスケジュールおよび検討内容の議題予定

- | | |
|-------------------|---|
| 第3回実装協議会: 令和6年2月 | ・令和5年度の事業報告及び、令和6年度以降の事業説明 |
| 第4回実装協議会: 令和6年7月 | ・令和6年度の事業計画について |
| 第5回実装協議会: 令和6年10月 | ・令和6年度の事業状況報告及び、支援期間延長の説明
※当該協議会は書面開催を想定 |
| 第6回実装協議会: 令和7年2月 | ・令和6年度の事業報告及び、3年間の事業総括 |

※大きく事業内容を変更するときなど、場合によっては別日程で会議をお願いする場合もございます。

3. 河内長野市未来技術地域実装協議会スケジュールについて

■各事業の3年間事業スケジュールについて（第1回開催時）



3. 河内長野市未来技術地域実装協議会スケジュールについて

■各事業の3年間事業スケジュールについて（令和6年7月地域実装協議会時点）

